

お話に耳を傾け、実現する理想のお式

お客様に寄り添い、たかはし葬儀社らしいサービスを提供していく。そのためスタッフ全員がより協力し合える環境をつくりたい。それが今の私の源泉にある想いです。

前職ではトラックのドライバーをしていました。長年勤めたことで、その仕事をやり切ったと感じ「さらなる挑戦をして、人間的な成長をしたい」と転職を考えるように。社会貢献性があり、お客様を見つめたサービスが提供できるのはどんな業界か。いちからすべての業務に携われる会社はないものか。

このようにさまざまな考えを巡らせていたところ、「分業制ではなく、事前相談から施行まで一貫してお客様に携われる葬儀社に勤めたい」という結論に至りました。その後、小規模ながら地域密着で勢力的に活動している、たかはし葬儀社に出会ったんです。

入社後1年間は他のスタッフのサポートに徹しました。

現在は、ディレクターとしての業務を任されているほか、会社の事務作業なども担当しています。会社の仕事全般に携わるようになって学んだのは、葬儀の奥深さでした。

葬儀の進め方は人によって違い、10人いれば10通りの式がある。定められた正解がないんです。ですがそういった状況でも、ご遺族様には、本当に実現したいお式を叶えていただきたい。

そのために私は、ご遺族様のお話にゆつくりと耳を傾け、叶えたい理想のお式を選んでいただくことを大切にしています。

過去に担当した、ある葬儀でのことです。

亡くなられたのは、自ら命を断たれてしまった娘様でした。安置室でご遺体に寄り添う、お父様、お母様、そして弟様。お父様は責任感から、しきりに謝罪の言葉を口にしていました。

一人の人間として「お別れ前のお時間をできるだけ限り取ってさしあげたい」と直感的に感じました。しかし葬儀社の人間としては、式を進めなければなりません。

出来る限り時間をとってさしあげ、打ち合わせなどでは、丁寧に、静かに、ご遺族様のお話を聞くことに徹しました。

結果、私なりの考えを追求したご対応をしたことで、のちにご遺族様からは「しっかり見送りさせていたでいて、ありがとうございました」とお礼の言葉をいただきました。心からの感謝のお言葉や、私の考えたご対応が間違っていなかったという安堵感。今でも記憶に残っているご葬儀です。

私が入社した頃から、たかはし葬儀社はより良く変化しています。

以前と比べ、コミュニケーションが活発になり、チームワークも強固なものとなりました。

今、私が目標としているのは、スタッフが働きやすい環境をつくることです。

辛いことがあっても、ひとりがみんなのために、みんながひとりのために、前向きでいられる環境。そんな環境づくりを通し、これからもスタッフ全員で協力して、たかはし葬儀社らしいお客様に寄り添ったサービスを提供していきたいですね。



The Philosophy of TAKAHASHI SOUGISHA

あなたと共に生きる

Munehiro Sato